

## 第2回 臨床研修医のための腎臓セミナー

卒前・卒後教育委員会委員長

今井 裕一

### はじめに

臨床研修医制度が変更され丸2年が経過した。第1期生に相当する学年は、今年から3年目の後期研修に入っている。初期研修医の半数以上は一般病院での研修であること、また、初期研修期間に腎臓内科を選択するとは限らないことなどがあり、腎臓学に興味を持つ研修医が減少するのではないかという不安が生じている。学会として彼らに情報を発信しない限り、将来の担い手が不足する事態となることが予想され、卒前・卒後教育委員会は2005年夏から「臨床研修医のための腎臓セミナー」を開始した。

第2回は、11月19日(土曜日)、20日(日曜日)に沖縄で開催した。開催地を沖縄にした理由は、沖縄には多数の研修病院が存在し、全国各地から200名ほどの初期研修医が集まっていること、ただし、後期研修としての施設には人数の制限があり、再度、全国各地に戻るか米国に研修に出かけている現状があり、このような初期研修医こそ学会の情報を必要としていると判断したためである。本稿では沖縄での「臨床研修医のための腎臓セミナー」の概略を報告し、今後の予定をまとめる。

### セミナーの構成

第1回(東京)では、研修医同士の討論が不十分であったという反省から、今回は2日間とした。

1日目の17時から「初期研修後のキャリア形成」をテーマとしてワークショップを行った(詳細は、企画者 早野恵子先生の報告参照)。19時から情報交換会を行い、翌日のグループワークに大いに役立った。北海道出身、秋田出身の研修医もいた。

2日目は、7時30分から1時間、本学会理事の市

川家國先生(東海大学小児科教授)に「腎疾患の原因遺伝子を探る」と題して、難解な遺伝子用語とアプローチ法についてご講演をいただいた。単一遺伝子の異常によって生じる疾患と多遺伝子によって生じる多くの成人疾患に対してのアプローチの違いについてよく理解できたと思われる。

9時10分から1時間20分にわたり、西 慎一先生、山縣邦弘先生、吉田篤博先生が、「腎不全の患者を診たらどのように治療法を選択するか?」というテーマでセミナーを行った。症例提示の後、「血液透析にするのか、腹膜透析にするのか、腎移植を行うのか」についてグループ討論を行った。それぞれの治療法の長所、短所がよくまとめられていた。

10時40分から1時間10分は、意識障害患者のケーススタディを須藤 博先生が行い、ナトリウム異常症へのアプローチ法をわかりやすく解説した。

12時から13時までは、昼食をとりながらカリウム異常について遠藤正之先生、酸塩基平衡を筆者がクイズ形式で講演した。

13時20分から1時間20分にわたり、安田 隆先生が症例を提示し、グループ討論を行いながら筆者が蛋白尿・血尿へのアプローチ法について概説した。

14時40分から15時まで、日本腎臓学会幹事長の渡辺 毅先生が、内科学会の後期研修システム(認定内科医の取得)と腎臓専門医の研修目標などについて説明し無事終了した。

### 今後の予定

#### 1. 臨床研修医のための腎臓セミナー

費用、開催地などについて学会幹事、委員会で相

談し、以下のような方針で行うことに決まり、理事会でも承認された。

- ① 第3回は平成18年8月19日(土)、20日(日)に東京で、内田俊也先生が担当し、万有製薬と共催とする。
- ② 第4回は平成18年11月11日(土)、12日(日)に沖縄で、井関邦敏先生が担当し、中外製薬と共催とする。
- ③ 第5回、第6回の日時と担当者は未定、開催地は東京、大阪を考慮中。ただし、共催となる製薬メーカーは、キリンと旭化成ファーマに決定している。
- ④ 第6回まで実施し、引き続き行うかを検討する。

- ⑤ 各地域で同様の企画を行う場合は、委員会が協力する。

## 2. 医学部教育における腎臓学教育の実態調査と腎臓学教育サポートシステム

腎臓専門医に地域格差があり専門医制度委員会でも常に問題となってきた。いくつかの大学では、腎臓専門医が存在しないことも判明し、悪循環に陥っていることを憂慮していた。今回、5月初旬から全国医学部長あるいは医科大学長宛に腎臓学教育の実態調査を行っている。その結果を基にして、腎臓学教育の援助を求める大学に対して、日本腎臓学会としてサポートするシステムを構築する。